

開講年次・時期	1年後期	授業回数	15回	時間数	30時間	必修・選択	選択	授業形態	講義	単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	-------	----	------	----	-----	-----

科目コード	LA110	科目名	統計の基礎	担当者名	櫻本 和也
授業の概要	第四次産業革命と称される「データサイエンス」について、多岐にわたる知識と学際的な背景から統計の基礎的知識の習得を目指す。特にSPSSによる量的アプローチに加え、立命館大学の樋口耕一教授が開発したフリーソフトウェアのKH Coderによる質的アプローチの両側面から統計の基本的な考え方と手法について学修する。その上でデータ収集からデータの分析・可視化に至る基礎的能力を修得し、現代社会に溢れる情報を適切に取り扱う能力を養う。				
科目の到達目標	1. 現代的な課題の特定・設定を基にしたデータの収集や読み取る過程で、統計的解釈の重要性を理解した上で分析することができる。 2. インプット(データ収集, データ加工・可視化, 統計的解釈など)から、アウトプット(レポート作成, 評価)に至るまで実施できる。				
DPの観点	③柔軟性(10), ④協調性(20), ⑥専門知識・技能(20), ⑨主体性(10), ⑩問題解決力(40)				
授業時間外学修(予習・復習)	予習: グループでの役割分担や意見交換を通して、次回の講義内容にかかる情報収集に努める(毎回, 2時間程度)。 復習: 授業内容の振り返りと進捗状況をグループで確認し、次回の講義に向けた情報共有を行う(毎回, 2時間程度)。				
フィードバックの方法	理解度調査と講義内容への質問・要望をコミュニケーションシートとしてロイロノートに提出。各回ごとに管理し、フィードバックと振り返りの実施に活用する。				
単位認定の要件	グループワークとディスカッションの協働による課題, および発表と期末課題で単位修得の基準を満たすこと。				
評価の方法・割合(%)	課題及び提出物(10%), グループワーク活動(45%), 発表・期末レポート(45%)で総合的に評価する。				
履修上の注意事項	グループワークが中心となるため、メンバー間でのコミュニケーションが不可欠となる。積極的な姿勢で取り組んで欲しい。				

回数	予定	実施	テーマ・内容	観点	方法
1			授業概要・データサイエンスとは	③, ④, ⑥, ⑩	コミュニケーションシート
2			オリエンテーション: データを体感する	④, ⑥, ⑨, ⑩	グループワーク
3			現代的課題・目的の特定(ブレインストーミング)	④, ⑥, ⑨, ⑩	グループワーク
4			グループワーク①: ブレインストーミングとKJ法の実践	④, ⑥, ⑨, ⑩	ディスカッション
5			グループワーク②: KJ法による課題と目的の特定	④, ⑥, ⑨, ⑩	ディスカッション
6			データの収集	④, ⑥, ⑨, ⑩	コミュニケーションシート
7			データの収集と分析①(SPSS・KH Coderの使い方)	④, ⑥, ⑨, ⑩	コミュニケーションシート
8			データの収集と分析②(KH Coderを用いて分析を行う)	④, ⑥, ⑨, ⑩	コミュニケーションシート
9			進捗・中間報告会	③, ④, ⑥, ⑩	プレゼンテーション
10			データの加工と可視化	④, ⑥, ⑨, ⑩	グループワーク
11			レポートの準備①(各グループで発表準備を進める)	③, ④, ⑥, ⑩	ディスカッション
12			レポートの準備②(リハーサル発表を実施する)	③, ④, ⑥, ⑩	ディスカッション
13			レポート(前半発表クラス)報告会と省察	④, ⑥, ⑨, ⑩	プレゼンテーション
14			レポート(後半発表クラス)報告会と省察	④, ⑥, ⑨, ⑩	プレゼンテーション
15			統計の基礎にかかるまとめと期末課題	④, ⑥, ⑨, ⑩	レポート
期末試験			実施しない		

使用テキスト	毎回の授業ごとに資料・レジュメを配布する。
参考文献 参考URL	https://kncoder.net/ その他, 適宜紹介する。
備考	進行状況により, 授業のテーマ・内容は変更になる場合がある。

DPの観点	①聴く力②表現力③柔軟性④協調性⑤社会性⑥専門知識・技能⑦思考力⑧実践力⑨主体性⑩問題解決力
-------	--

授業の自己評価	
---------	--